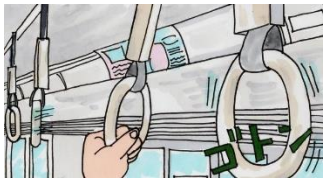
届け 世界の果てまでも

令和５年２月３日　福　Ｎｏ．６３　文責　校長　飯久保一男

正しく伝える　…正しく受け取る

コロナ禍の初期に「トイレットペーパーがなくなる」という“デマ”が拡散されました。
デマが大騒動にまでなってしまった事件に，昭和４８年（ずいぶん古い話になりますが…）の「豊川信金事件」があります。



１２月　８日（土）

愛知県の飯田線の列車内での３人の高校３年生女子生徒の会話。

Ａ「私，豊川信金に就職が決まったよ！」　　Ｂ「いいなぁ。」

Ｃ「でも，豊川信金って危なかったりして。」

その晩，Ａは両親に「なんか，Ｃったら，豊川信金は危ないとか言うんだよね」と伝えた。

※Ｃは，金融機関には強盗が入ることもあるから危険かもしれないという意味で言った冗談だった。

１２月　９日（日）

Ａの両親は，知り合い４人にこの話をうわさとして伝えた。

１２月１３日（木）

両親が話した知り合い４人のうちの１人の女性は，店を経営していた。そこへ電話を貸してほしいという男がやってきたので電話を貸した。何気なくその電話の話を聞いていると「おい，豊川信金から１２０万おろせ。すぐだぞ，いいな！」という声が聞こえた。うわさじゃなかった。そう信じた女性は，親戚一同に伝えた。瞬く間にうわさは真実として伝わり，広がった。

※男は，ただお金が必要だった人。当時は，緊急に連絡をするためには公衆電話を使うか，公衆電話が見当たらない場合は，こうやって店などの電話を借りて連絡した。使った後には電話代として１０円（10～30円？）を置いていった。

１２月１４日（金）

豊川信金に６，６００人が殺到した。２０億円が一気に引き出されるという取り付け騒ぎにまで発展した。雑踏整理をした警察官を見て「豊川信金に強制捜査」などというデマも流れ，パニックに拍車がかかった。

※昭和４８年は，１０月に「オイルショックによるトイレットペーパーがなくなる」というデマが騒動になるなどの不景気や社会不安があり，デマが流れやすい下地がありました。…ちなみに私が小学５年生のときのことです。

ＳＮＳのなかったころの話です。何気ない女子高校生の冗談が曲解されて伝わり，１週間も経たずに拡散し，大騒動となってしまった事件です。お金が絡むことは，デマとなって拡散されやすいのかもしれません。

そして今はＳＮＳで簡単にデマが拡散できますので，上記の昭和のころとはデマの質が違います。ところが，冒頭のコロナ禍初期のデマにより，実際に全国でトイレットペーパーが品薄になってしまいました。これは，

- ■ 中国で新型コロナ感染症が拡大しているので，トイレットペーパーの原料が輸入できなくなる
- ■ 中国のトイレットペーパーの製造工場が止まるので，トイレットペーパーが不足する
- ■ マスクとトイレットペーパーの原料が同じなのでマスクを増産するとトイレットペーパーが不足する

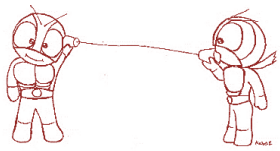
などの間違っている流言がもとなのですが，トイレットペーパーが品薄になった直接の原因は，これらの流言では“ない”とされています。

製紙会社などからは，流言を否定する内容のＳＮＳによるメッセージが，何度も伝えられました。マスコミもこぞって，流言がデマであることを伝えました。ところが，そのために人々にある心理が生まれてしまったのです。

トイレットペーパーがなくなるというのはデマであることは，人々にはしっかり伝わっていたのですが，「デマを信じた人が買いだめをするとトイレットペーパーが不足するかもしれない」「品薄になる前に買い足しておこう」という心理が生まれてしまいました。デマを否定する内容をＳＮＳやテレビで何回も伝えるので，自分はデマを信じていないけど，信じる人がいるかもしれないという不安も生んでしまったのです。デマだと分かっていたのにデマの通りになってしまったという現象だったのです。

話は変わりますが，何かを伝えようとするとき，自分の気持ちは伝わっていないことが多いのだそうです。自分が自分を見るのと同じように，他の人も自分を見てくれているとの「思い込み」があるといわれています。カナダのマニトバ大学の研究です。

【実験】　被験者に，２人１組で話し合いをしてもらう。
・個々に「自分の考えを曲げない」「相手に好意をもたれる」などの最終目標を与える。
・最終目標は言葉にはしないで，それを態度で示す。



【結果】　相手の最終目標を正しく推測できた人　　２６％
自分の最終目標が伝わっていると答えた人　６０％

【結論】　自分の考えが見抜かれていると思っても，実際にはほとんど伝わっていない。

授業では，表現力を育てることも目標に取り組んでいますが，子どもが子どもに正しく伝えるということはなかなか難しいことです。正しく伝わればトラブルを避けることもできるのですが…。

- ■ ○○くんにこう言われた⇔そんな言い方はしていない，という記憶の食い違い
- ■ こうしようと決めたことの理解がそれぞれ違っていた，という「思い込み」
- ■ □□しろよと言ったら，何でだよ，とケンカになった，という思いの伝わらない言葉づかい

親子の間ではどうでしょう。親が伝えたかったことが子どもに正確に伝わっているでしょうか。笑い話のようですが，親の手が離せないので，小さい弟の「面倒を見て」ほしく，小学生の兄に「見ていて」と伝えたところ，弟がイスから落ちて泣いていた…，「見ていてって言ったでしょ」と言うと，イスから落ちるのを「見ていた」なんてことがありそうです。

また，子どもの言葉が足りていないまま親に伝わることもあります。学校で嫌なことがあったと親に伝えたところ，ウチの子がいじめられているという「思い込み」から学校にお怒りの電話が来たのですが，よく聞いていくと，その子はその何倍も他の子が嫌がることをしていたということもあるものです。

そして，大人どうしではどうでしょう。ＳＮＳでのやり取りが多くなり，文字で伝えることによる誤解や，文字では気持ちが伝わらずに誤って伝わってしまうことなどがないでしょうか。

正しく伝えることは大切です。しかし，トイレットペーパーのデマのように，正しいことを伝え，それが伝わっているのに，デマの通りになることのある現在です。そんな現在ですので，うわさが伝わってきたときは，正しくないうわさに「尾ひれ」がついて伝わってきたと考えたほうがいいのです。正しく伝え，正しく受け取りましょう。

◆◆◆◆◆◆ 最近「ゴリラ」が登場してないと４年１組の子どもたちの声が届いたので載せましたよ。しかも「ゴリラ」新バージョン！

本校全教職員でスマホのメッセージアプリでグループをつくり，周知すべきことなどを連絡しています。
妻が体調をくずしたので，私が洗濯をして外に干して出勤しました。すると昼前に雨が降ってきました。
家で休んでいる妻に洗濯物の取り込みを送信したつもりが，直前に教職員グループの連絡があったので，
それに返信してしまい，何と，教職員全員に「洗濯物を取り込め！」とメッセージを送っていました…。